



稲作情報 第3号

(育苗～田植、本田初期の管理)

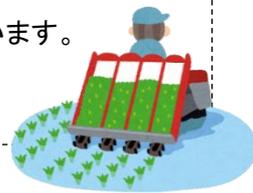
JA夢みなみ(すかがわ岩瀬地区・あぶくま石川地区)、県中農林事務所須賀川農業普及所

令和7年4月9日～

令和7年5月7日

春の農作業安全運動展開中です！(3月1日～5月31日)

田植機やトラクター等の点検や清掃時に、作業機に巻き込まれ死傷する事故が発生しています。点検・清掃を行うときは、**必ずエンジンを切る**ようにしてください。トラクターの安全フレームは立てて作業をしてください。また、盗難防止のため、機械の保管場所は必ず施錠しましょう。



1 気象庁発表 東北地方発表 1ヶ月予報 (4月5日～5月4日までの見通し)

天候予報(4月3日発表)によると、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。平均気温は高い見込み、降水量はほぼ平年並の見込み、日照時間は平年並か少ない見込みです。

2 育苗期の管理 ～極端な高温や低温、過湿に注意しましょう～

○**30℃以上の高温**で、**もみ枯細菌病**などが出やすくなります。温度の確認とこまめな換気をしましょう。

○**5℃以下の低温**で、**ムレ苗や苗立枯病**が出やすくなります。気温が低くなりそうな場合は、保温をしましょう。

○かん水は基本的に**早朝に1回**行います。夕方以降のかん水は、過湿により床土が酸欠となる上に低温となり、根が大きなダメージを受けるため、原則行いません。

3 移植時の注意点～適切な植付本数と植付深を！～

○植付本数は3～4本/株、植付の深さは2～3cm程度が目安です。

植付本数が多いと… 細い茎となり、軟弱で倒れやすくなってしまいます。

深植えすると… 分げつの発生が抑えられ茎数が少なくなってしまいます。

○苗が傷むため、強風時や低温時の田植えは、できるだけ避けましょう。

○補植は除草剤散布の前に行いましょう。置き苗はいもち病の発生源となるので、補植後すぐ除去してください。

高密度播種移植栽培(密苗・密播)の移植で注意すること

・高密度播種移植栽培の苗は通常の苗より小さいため、田面が凸凹だと浮き苗になりやすくなります。

丁寧な代かきを行い、苗を植えたときに土が株元に埋め戻る程度の土壌の硬さを目指しましょう。

・移植時は浮き苗を防ぐため、ひたひた水もしくは落水状態で田植えをしましょう。

移植が遅れたら・・・

長く育苗しすぎた苗は老化が進み、活着が遅れる可能性があります。こうした場合は、移植2～3日前に育苗箱1枚あたり窒素成分1gを目安に追肥してください。追肥後は葉焼けを避けるために軽く水やりし、稲についての肥料を洗い流してください。例:育苗箱1枚当たり硫安5gを1Lの水に溶かして追肥=窒素成分1g/箱

4 移植後の水管理 ～健苗であれば活着もスムーズです～

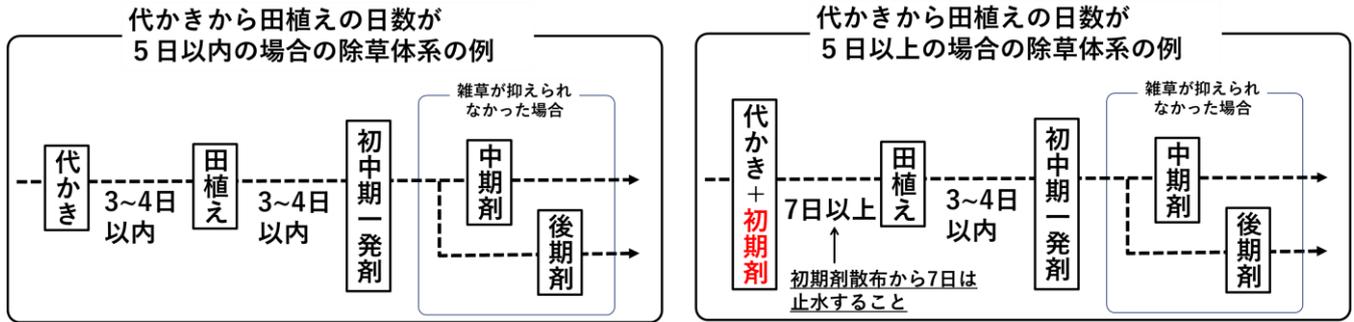
移植直後～活着まではやや深水管理(5cm程度)とし、移植後の苗を保護します。強風や低温時は、特に深水管理を徹底しましょう。新しい根が出てきたら(=活着)、浅水管理として分げつの発生を促進しましょう。

5 雑草対策

○令和6年度の管内で、ノビエを中心とした雑草が過繁茂したほ場が散見されました。高温の影響により水稻の生育が早まる傾向にありますが、雑草も同様に生育が早まるため、早期の防除が重要です。

○代かきから田植えまでの日数が長いと、雑草の生育が進み、除草剤の効果が弱まる恐れがあります。代かきから田植えの日数は3～4日以内を目安にしましょう。それよりも日数が空く場合は、代かき時の初期剤の散布を検討してください。

○薬剤のラベルで使用時期・使用方法・使用量を確認し、適切に散布しましょう。また、除草剤は移植と直播で使用方法(時期)が異なるため注意が必要です。



6 除草剤を効果的に使用するために・・・

- 田面が露出してしまうと、その部分で除草剤の効果が得られないため、代かきを丁寧に行い、ほ場の均平化に努めましょう。
- 水もちの悪い水田は除草剤の効果が劣ります。畔塗りの実施により漏水対策に努めましょう。
- 散布後 3～4 日間は湛水状態(水深 3～5cm)を保ち、散布後 7 日間は止水とし、落水や掛け流しをしないようにしましょう。
- 散布後に大雨が予想される場合は除草効果が低くなる可能性があります。天候に注意しましょう。

7 こぼれ糶や雑草イネの発生が懸念される場合・・・

前年から作付け品種を変えた場合、こぼれ糶による異品種混入が懸念されます。また、玄米色が赤い「雑草イネ」は収穫物に混ざると異品種混入となる可能性があります。

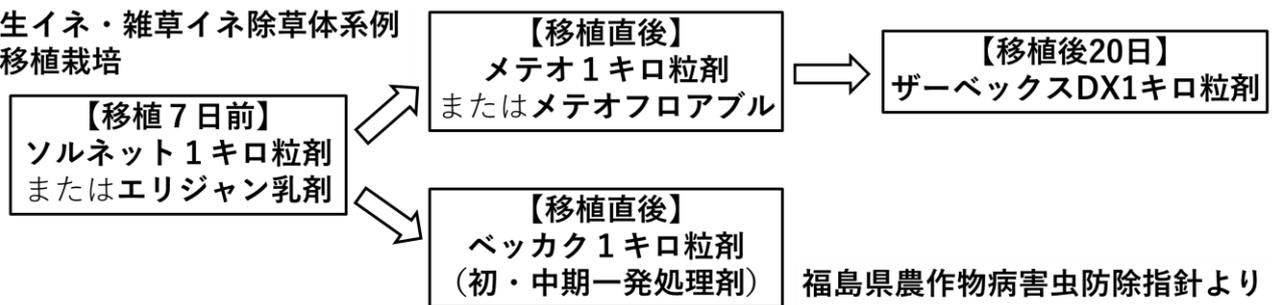
対策のポイント

- 丁寧な代かきをして種子を深く埋め込む。
- 遅植えをしてこぼれ糶や雑草イネを田植前に出芽させ除草剤で防除する
- 移植栽培では雑草イネに有効な成分である「プレチラクロール」を含む初期除草剤(エリジャン乳剤等)の散布を検討してください。



雑草イネの写真

漏生イネ・雑草イネ除草体系例 ※移植栽培



8 初期生育確保のために～スタートダッシュを心がけましょう～

- 移植後の初期生育を確保するためには、根の健全な生育が重要です。
- 還元状態(酸素不足)になると、根は生育が抑制され黒く変色し、量も少なくなります。根が少ないと養水分の吸収能力が低下し、稲の生育停滞や分けつの発生の遅れが出る場合があります。
- 還元対策には、水田土壌を酸化状態(酸素を多くする)にすることが重要です。葉の黄変やガスわきといった異常が確認された場合は、落水をしてガス(還元により発生する有機酸や硫化水素)を抜き、根に酸素を供給しましょう。



ガスわきの写真

県中農林事務所須賀川農業普及所 電話(0248)-75-2180	ご不明の点は、JA夢みなみ、須賀川農業普及所にお問い合わせください 次回の発行予定日は令和7年5月8日(木)です。
-------------------------------------	--

本資料は、発行日現在の農業登録情報を基に作成しています。農業使用の際は、最新情報を確認願います。